

# 知的障害生徒の「願い」を拡げ育てる授業づくり（2）

—仲間とともに学びを深める「協同学習」の検討—

○ 高津梓 工藤傑史 深津達也 佐藤義竹 安達敬子 宇佐美太郎  
 (筑波大学附属大塚特別支援学校)

KEY WORDS: 知的障害特別支援学校 生徒の「願い」 協同学習

## 【目的】

次期学習指導要領改訂の視点は、子どもたちが「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということであり、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関わるものの全てを、いかに総合的に育んでいくかということであるとしている。学びの量と共に質や深まりが重要であり、子どもたちが「どのように学ぶか」についても検討すべき課題とし、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」についても議論が深まっている。子どもの学びを支える学習機会は多様であり、小集団の仲間と目標を共有し、互いに支え合いながら目標を達成したり、評価し合ったりしながら学びを深める「協同学習」もその一つと考える。

本研究では、知的障害特別支援学校において、生徒自身が表明した興味・関心に基づいた題材を基にした「協同学習」を実施し、小集団での学び合いを通じた、生徒の主体的な参加や仲間との相互交渉、個々の学びの変化を検討することで、仲間と学び合う授業づくりの可能性を検討することを目的とした。

## 【方法】

**1. 授業設定:** 知的障害特別支援学校中学部(生徒17名)「生活単元学習」において、「国際理解学習」を題材にした単元を実施するために、生徒へのアンケートを行い、興味・関心の高さから複数の分野を設定した。各生徒は学びたい分野を選択し、グループごとにその分野の①調べ学習②体験活動を行い、その後全グループ合同の③発表会を実施することとした。①から③は5クール行い、その都度グループの再選択機会を設けた。

**2. 対象:** 上記授業において、「鉄道」分野を選択した生徒4~7名のうち、全クール継続して選択した3名(生徒A:1年、生徒B:2年、生徒C:3年)を対象生徒とし、「①調べ学習」活動を分析対象とした。3名共に鉄道に関する関心は高いが、楽しみ方のレパートリーは少なく、一人で写真を見たり、一方的に人に話したりする傾向が見られた。

**3. 手続き:** [BL] 教師が主導し、調べたいことや知りたいことを挙げるよう促し、タブレット等を用いて調べた。

[1期] 本校研究紀要59集(2016)の「中学部の協同学習の要素」を取り入れ、4名のチームでの活動を設定した。表面に写真、裏面にキーワードの書かれた複数のミッションカードから好みのものを選択し、キーワードをもとにタブレット等で調べ、国名や特徴をシートにまとめた。

[2期] 2~3名のチームでの活動とした。1期と同様の手続きに加え、活動および役割の量を増やした(リーダーがチームの仲間と依頼をする、切り分けたシートを用意し内容ごとに書いてから貼る、等の設定を加えた)。また、調べた内容についての「体験活動」を行った。

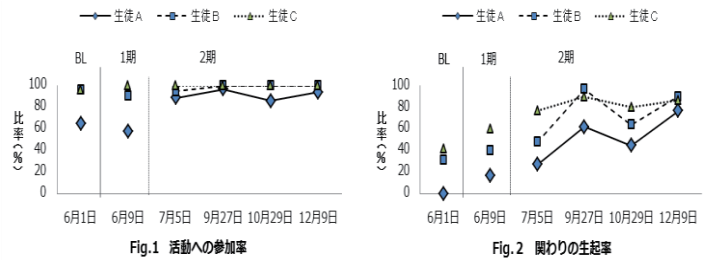
**4. 評価方法:** 主体的な活動参加の評価として、授業中の設定された活動(話す、書く、移動する)について、仲間との相互交渉の評価として、他生徒へのポジティブな関わり(言葉がけ、教材の促し、応答)について、それぞれ生起の

有無を1min部分インターバルで記録し、生起率を算出した。さらに、個別の教育計画の目標の評価として、授業における評価の観点を挙げた評価表を作成し、毎授業後、参加レベル(3自発.2友達の促し.1教師の支援.0機会なし)を評価した。

## 【結果・考察】

主体的な活動参加の評価として、活動への参加率を Fig.1 に示した。興味・関心のある分野での活動だったこともあり、初回から高い参加が見られたが、2期になるとどの生徒もほぼ100%の割合で参加していた。仲間との相互交渉の評価として、関わりの生起率を Fig.2 に示した。BLでは、仲間とのやりとりはどの生徒も50%以下であり、生徒Aにおいては生起していなかった。協同学習として設定を行ったところやや上昇し、2期では仲間同士で話し合いながら活動を進めていく様子など80%前後の関わりが見られるようになった。また、生徒の個別目標の評価を Table1 に示した。本単元においては、意志の表出や他者との相互交渉および調整等が目標としてあげられていたが、設定された活動や課題に自ら進んで取り組む姿が見られるようになった。

エピソードとして、生徒Aは自分でやりたいことを仲間伝えるようになり、生徒BCは新しくグループに参加した生徒にやり方を教えたり意見を尋ねる姿が見られるようになった。3名ともに、授業外の場面でも互いに共通の会話をしたり、一緒に本やタブレットを見たりする様子が見られた。また、誘い合って趣味のイベントに出かけるなど、生活への拡がりも見られている。



個別の目標における評価の観点		6/8	7/5	9/23	10/29	12/9
A	自分のやりたい活動や調べたいものを、選択肢から選び、友達や教員に伝える。		3	3	3	3
	友達と一緒に主体的に活動に参加する。		3	3	3	3
	友達と役割分担し、自ら取り組む。		3	3	3	3
B	活動をふりかえり、楽しかったことや興味を持ったことなどを記録する。		3	3	3	3
	相手のやりたいことを聞き、調整したり譲ったりする。		3	3	3	3
	自分のやりたいことを適切な言葉にして伝える。		3	3	3	3
C	関心のある分野を見て、友達と会話をしたり、協力して活動したりする。		3	3	3	3
	活動の中で自分が行ったことを、友達の発表を聞きながら、発表したりする。		3	3	3	3
	友達の発表を見て、感想やコメントを具体的に伝える。		3	3	3	3
D	相手の意見を聞き入れて、自分の希望を調整する。		3	3	3	3
	手をつけていないことがあったときに、一人で切り替えることができる。		3	3	3	3
	自分のやりたい活動を伝える。		3	3	3	3
E	他のグループの発表を聞いて、感想を言ったり書いたりする。		3	3	3	3
	自分の好きなことについて、友達に適切に勧めたり誘ったりする。		3	3	3	3
	行ったことを振り返り、具体的な文章で書いて、次回行いたいことなどを希望を伝える。		3	3	3	3
F	自分の話を伝えるだけでなく、友達のやりたいことを聞き出す。		3	3	3	3
	友達と役割分担して、相手の活動を持つ。		3	3	3	3
	友達の呼び方、距離に気を付けて関わる。		3	3	3	3

**【まとめ】** 生徒のすでにある興味・関心を基に「協同学習」を設定することで、主体的な活動参加と仲間関係を促進し、仲間と共に楽しむ趣味といった、生活への拡がりの可能性がみられた。さらに活動内容において様々な教科領域との関連を意識し設定することで、総合的な学びの機会とすることができると考えられる。  
 (TAKATSU Azusa, KUDO Takeshi, FUKATSU Tatsuya, SATO Yoshitake, ADACHI Keiko, USAMI Taro.)